

新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 26 年 1 月

年 頭 の ご 挨拶

院長 横山 晶

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。あわせて、昨年中の当院の地域医療連携事業に対する多大なご支援に厚く御礼申し上げます。

さて、今年の干支は「甲午」です。午は正午というように、前半と後半の交差する数のことで、午年は新旧勢力の衝突がおき、成り行きによっては運命が一変する年だそうです。午年で、今年還暦を迎える日本の代表者の靖国参拝が波紋を広げていますが大丈夫でしょうか。馬にちなんだことわざに「人間万事塞翁が馬」というのがあります。人の世の禍福は予測しがたく、福がいつ禍となり、禍がいつ福に転じるか分からないのだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではないというたとえです。日本の政治・外交も「人間万事塞翁が馬」かも知れません。

正月恒例の箱根駅伝は、母校の襷を繋ぐことへの強い思いや厳しいシード権争いの中に起きる筋書きのないドラマが感動を与えてくれます。私は大好きなのですが、弊害の方が多いというような批判もあります。とにかくマスコミの力？で巨大化し、選手の胸にあるスポーツ用品各社のロゴマークがテレビ中継されるだけで60億円の宣伝効果ともいわれており、スポーツ用品各社の受注レースも白熱化しているようです。

2014 年度は診療報酬改定の年になります。今回は、本体プラス 0.1% で決着しましたが、薬価

がマイナス 0.63% であり、消費増税に伴う仕入れコスト増を含めるとネットではマイナス 1.26% となり、6 年ぶりのマイナス改定となりました。小泉政権時代から続いた医療費抑制政策が医療崩壊を招いたのも事実ですので、同じ過ちを繰り返すことがないように願っております。

本年 2 月 8~9 日に、「暮らす」を支えるがん看護—知・技・倫（みち）—をテーマに日本がん看護学会が当院の佐藤順子学会長のもとで開催されます。昨年年頭の地域連携だよりにも書かせて頂きましたが、新しいがん治療の目標はこれまでの「命を救う」から「元の暮らしを取り戻す」になっています。まさにタイムリーな企画だと思いますので、是非大勢の方の参加をお願い申し上げます。

当院の地域連携・相談支援センターは、昨年は居室も統合され、紹介患者件数は年間約 4000 件以上で年々増加しており、医療相談件数も年間約 7000 件以上と増加しておりますが、これからも、患者さんに対する前方・後方支援がより円滑になるように、また、ご紹介頂いた先生方への迅速な診療情報の提供が確実に行われるように精進してまいりたいと思いますので、気軽に地域連携・相談支援センターをご利用下さいますようよろしくお願い申し上げます。

今年一年の皆様のご支援とご健勝を心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

「がんのリハビリテーション」のご紹介

整形外科部長（リハビリテーション担当） 守田 哲郎

新潟県がんのリハビリテーション研修実行委員会委員長

—「新潟県がんのリハビリテーション研修実行委員会」設立にあたって—

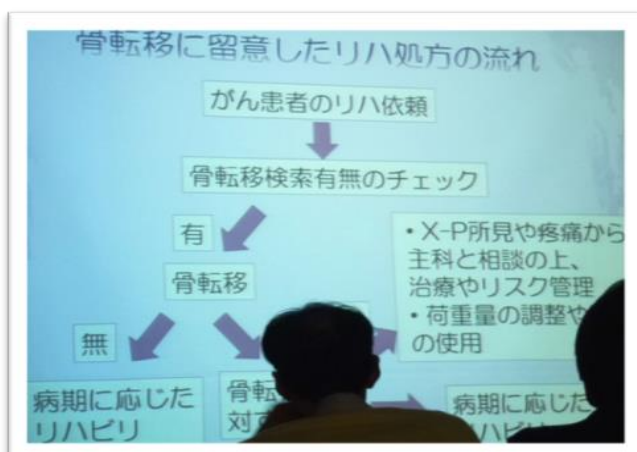
がんのリハビリテーションをご存知でしょうか。近年、高齢化の進行とともにリハビリテーションという言葉は医療や福祉の分野で盛んに用いられ、患者の生活の質（QOL）向上を目指したリハビリテーションの重要性は広く各方面に浸透してきました。しかし、がん医療の分野では、欧米ではがん治療の重要な一分野としてリハビリテーションが位置づけられています。わが国では、今まで当院を含めてがんセンターなどの高度がん専門医療機関においては救命のみが重視され、「がん患者に対するリハビリテーション（がんのリハ）」は注目されず、リハビリテーション科専門医が常勤している施設はほとんどなく、療法士もわずかという状況にあります。

一方、がん医療では医療技術の進歩にて、がん生存率は着実に改善しており、今やがん患者の半数以上が治るようになってきています。がんが“不治の病”であった時代から、今や“がんと共存”する時代になってきたといえます。このような状況下で単なる救命や延命でなく、

がん患者の障害の軽減や生活能力の改善をはかるためのリハビリテーションはがん診療において喫緊の重要課題になっています。実際、リハビリテーションの医療現場でがん患者の障害の軽減、運動機能低下や生活機能低下の予防や改善、介護予防を目的としてリハビリテーションを行う機会は多くなってきていて、がんにともなう身体障害はリハビリテーションの主要な治療対象の一つになりつつあります。

当院でもリハビリテーションは、以前は殆どが整形外科疾患で、わずかにがんの進行した患者が依頼されるのみでしたが、数年前から積極的にがんのリハビリテーションに取り組み、乳癌、肺癌、食道癌では周術期からリハビリテーションに力を入れています。しかしマンパワー不足は否めず、また院内のがんのリハビリテーションの認知度は非常に低いと言わざるを得ません。

「がんのリハビリテーション」は、がんの進行度によって、1) 予防的リハビリテーション 2) 回復的リハビリテーション 3) 維持的リハビリテーション 4) 緩和的リハビリテーションに分類されますが、その他原発がんによる相違もあり、がん医療全般の知識が必要とされ、摂食・嚥下障害、浮腫、呼吸障害、病的骨折、運動麻痺、精神心理などの障害に対する専門的な知識や技術が必要です。したがって、がん患者のリハビリテーションにかかわるスタッフは、「がんのリハビリテーション」の知識やテクニックを身につけておく必要があります。しかし



最近までリハビリテーション専門職に対する「がんのリハビリテーション」の研修プログラムは存在せず、欧米と比較して、がんのリハビリテーションの教育・研究・普及やがん専門医療機関においてその対応が遅れているため、我が国でもその対策として厚生労働省の委託事業としてライフプランニングによるがんのリハビリテーション研修が開始され、平成20年からがんのリハビリテーション料が設定されています。

新潟県内の状況をみると、がんのリハビリテーションの研修を受けた施設は未だ非常に少数で、研修なしでがん患者に対してリハビリテーションを行っている施設が多数あります。前述のように「がんのリハビリテーション」には、がん医療全般の知識が必要とされ、がんに起因する様々な障害に対する専門的な知識や技術が必要です。

がんのリハビリテーション研修は、広く国内

各地で研修受講が可能となるように平成26年度から各県で多施設のリハビリテーション関連の多職種からなる「がんのリハビリテーション研修実行委員会」がライフプランニングの指導のもとで開催することになり、新潟県でも昨年11月、リハビリテーション関連団体が共同で“新潟県がんのリハビリテーション研修実行委員会”を設立し、がんのリハビリテーション研修会を県内で開催すべく鋭意努力中です。この活動を通して「がんのリハビリテーション」が広く県内に浸透し、がん患者さんの福音となることを願っております。



がんのリハビリテーション研修会ワークショップ風景

学会・講演会 開催予定のお知らせ



第28回 日本がん看護学会学術集会

J-SCN 28th Annual Conference of the Japanese Society of Cancer Nursing



テーマ 『暮らす』を支えるがん看護 —知・技・倫の融合—

会期：平成26年2月8日（土）～9日（日）

会長：佐藤 順子（新潟県立がんセンター新潟病院 看護部長）

会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター、ホテル日航新潟・万代島ビル

【お問い合わせ先】 日本がん看護学会 URL: <http://jscn28.umin.jp/>

平成25年度 いのちをめぐる連続講演会 **テーマ** ～スピリチュアル ケアとは～

「スピリチュアル ケアのむかうさき これからの展望」

日時：平成26年2月28日（金）18:00～19:30

会場：新潟県立がんセンター新潟病院 2F 講堂

講演者：谷山 洋三氏 東北大学大学院文学研究科（実践宗教学寄附講座）准教授

*会費は無料 事前申し込み不要

【お問い合わせ先】 新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター（内線 2267）

新潟県立がんセンター新潟病院 2014年（平成26年）1月外来診療予定表

1月1日現在

		月	火	水	木	金
内 科	401診	D 張 高明	A 成澤 林太郎	D 廣瀬 貴之	/	
	402診	C 高山 亜美	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介
	501診	C 大倉 裕二	F 谷 長行	F 谷 長行	/	
	502診	A 青柳(午前) A 加藤(午後)	E 大山 泰郎	A 加藤 俊幸	E 大山 泰郎	B 阿部 徹哉
	601診	B 横山 晶	A 栗田 聡(隔週)	B 阿部 徹哉	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 加藤 俊幸	A 船越 和博	A 佐々木 俊哉	A 船越 和博	C 高山 亜美
	201診	B 田中 洋史	/		B 樋浦 徹	/
科 新患 (2診体制)	A 成澤 林太郎	A 青柳 智也	A 船越 和博	A 加藤 俊幸	A 成澤 林太郎	
	A 佐々木 俊哉	B 小山 建一	B 田中 洋史	B 才田 優	A 栗田 聡	
	B 阿部 徹哉	C 大倉 裕二	D 今井 洋介	C 高山 亜美	B 樋浦 徹	
	F 谷 長行	D 石黒 卓朗	E 大山 泰郎	D 廣瀬 貴之	D 張 高明	
	*新患は2名の医師が担当します。当日の担当医についてはお問い合わせください。					
A：消化器 B：呼吸器 C：循環器 D：血液 E：内分泌 F：糖尿病						
小児 科	1 診	浅見 恵子	小川 淳	渡辺 輝浩	浅見 恵子(～11:00) 長期フォローアップ外来 (11:00～)	小川 淳
	2 診	/		/		渡辺 輝浩
外 科	1 診	佐藤 信昭(乳腺)	梨本 篤(胃)	土屋 嘉昭(肝胆臓)	中川 悟(食道)	瀧井 康公(大腸)
	2 診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	野村 達也(肝胆臓)	藪崎 裕(胃)	丸山 聡(大腸)
	3 診	利川 千絵(乳腺)	會澤/小松崎(交替)	神林 智寿子(乳腺)	番場/西垣(交替)	佐藤(洋)/福本(交替)
	予防センター-乳腺	金子/長谷川		佐藤 信昭	神林 智寿子	佐藤/神林(交替)
*乳腺外科については原則予約制となりますので、あらかじめご了承ください。						
呼吸器外科	吉谷 克雄	青木 正	篠原 博彦	青木 正	篠原(1,3,5週) 吉谷(2,4週)	
整形 外科	新患	小林 宏人	畠野 宏史	守田 哲郎	有泉 高志	村井 丈寛
	再来	守田 哲郎	有泉 高志	村井 丈寛	畠野 宏史	小林 宏人
*整形外科は完全紹介制となりますので、あらかじめご了承ください。						
神経内 科	原山 尋実	二宮 格	原山 尋実	/		原山 尋実
脳神経 外科	1 診	宇塚 岳夫	/		宇塚 岳夫	宇塚 岳夫
	2 診	高橋 英明	/		高橋 英明	高橋 英明
婦人 科	1 診	児玉 省二	本間 滋	笹川 基	児玉 省二	本間 滋
	2 診	笹川 基	菊池 朗	菊池 朗	菊池 朗	笹川 基
	3 診	/		児玉 省二	本間 滋	児玉 省二
*婦人科3診については原則予約制となりますので、あらかじめご了承ください。						
皮膚 科	1 診	高塚 純子	藤川 大基	竹之内 辰也	藤川 大基	高塚 純子
	2 診	藤川 大基	竹之内 辰也	藤川(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
泌尿 器科	1 診	北村 康男	小林(1,3,5週) 北村(2,4週)	斎藤 俊弘	斎藤 俊弘	北村 康男
	2 診	小林 和博	山崎(1,3,5週) 斎藤(2,4週)	小林 和博	山崎 裕幸	山崎 裕幸
*新患については紹介状が必要となりますので、あらかじめご了承ください。						
眼 科	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	
頭頸部 外科	1 診	佐藤 雄一郎	富樫 孝文	/		佐藤 雄一郎
	2 診	甲斐 竜太	甲斐 竜太	/		富樫 孝文
放射線 治療科	1 診	杉田 公	杉田 公	杉田 公	松本 康男	松本 康男
	2 診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	杉田 公	杉田 公
	3 診	金本 彩恵	金本 彩恵	金本 彩恵	金本 彩恵	金本 彩恵
*木曜日の新患依頼は対応できない場合がございます。ご了承ください。						
麻 酔 科	丸山 洋一、高田 俊和、富田 美佐緒(月～金 予約可能)					
形 成 外 科	/		坂村 律生	坂村 律生	/	
緩和ケア科	齋藤 義之	齋藤 義之	齋藤 義之	齋藤 義之	齋藤 義之	
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方を対象としております。						
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)	午前のみ		午前/午後		午前/午後	
	*当院に受診中であり、主治医より紹介された方を対象としております。					

※ 変更となる場合がございますので、事前にご確認ください。(電話：025-234-0011)

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月～金 8:30～17:00

地域連携・相談支援センターを通して予約した場合、原則として予約日当日に行える検査

CT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます